

勝俣電事連会長 定例記者会見要旨 (2006年9月22日)

電気事業連合会会長の勝俣でございます。

本日、私から申し上げるのは2点。1点目は、「今年の夏の電力需要」について、2点目は「環境行動計画のフォローアップ」について、です。

1. 今年の夏の電力需要について

まず、この夏の電力需要について申し上げます。

1頁の表とグラフをご覧ください。今年の夏の10社の最大電力は、8月7日15時に記録した1億7,498万kW(前年比98.5%)、また日電力量の最大は7月14日に記録した32億9,891万kWh(前年比98.6%)となりましたが、いずれも昨年の記録を下回る結果となりました。

実績が昨年を下回った要因については、まだ詳細な分析はできておりませんが、主として関東地方・東北地方の平均気温が昨年より低かったためだと考えています。

1頁の下の日本地図は、今年の6月から8月までの平均気温を平年と比較し、温度差ごとに色分けしたものです。全国的には平年より高めの地域が多かった中で、関東地方と東北地方は、ほぼ平年並みかそれ以下であったことがわかります。

付け加えますと、資料の2頁目の上段に7・8月の「真夏日」と「熱帯夜」の日数がありますが、昨年と比較して日数が共に減少したのは東京と仙台だけです。

こうした気温状況を反映して、多くの社において最大電力や日電力量が記録を更新するなど需要が伸びたものの、東京電力と東北電力のマイナス分が大きかったために10社合計が前年比マイナスとなりました。(東京電力は、10社の最大発生日で比較すると、前年に比べて最大電力で約250万kW、日電力量で約3,500万kWhのマイナス)

さらに、節電や省エネ意識が一層進んだ影響も考えられます。

クールビズの影響については、あくまで仮定に基づく参考の数値ですが、今年で2年目を迎えてクールビズが一層浸透した結果(実施企業割合4割程度5割程度)、全国において6月～8月の間で最大電力で約50万kW、電力量では約2.8億kWhが抑制されたものと試算しています。

昨年の試算では、抑制量はそれぞれ約40万kW強、2.1億kWhでしたので若干の深堀りとなっています。

以上、一日の最大電力と電力量の面から今夏の電力需要をご説明いたしましたが、月間を通した10社の発受電電力量の数字を見ますと、7月は前年比プラス1.2%、8月もプラス3.4%とかなり堅調な伸びとなっております。ちなみに、今年の7・8月合計の10社の発受電電力量は、2頁の下段のグラフのとおり、過去最大であった2004年の記録を更新しています。

また、本日公表した販売電力量の実績も資料をお配りしておりますが、8月は10社合計で821億kWh、前年同月比プラス1.8%と、昨年9月以来12ヶ月連続でのプラスとなりました。

とりわけ景気動向を反映する大口電力は、プラス5.6%で、昨年8月から13ヶ月連続でプラスが続いており好調さが持続しています。

この10月には戦後最長の「いざなぎ景気」と並ぶわけですが、電気の売れ行きから見た景気はなかなか堅調であり、今後もこうした状況が続くように期待しています。

2. 電気事業における環境行動計画のフォローアップについて

次に「電気事業における環境行動計画のフォローアップ」について申し上げます。

本計画は、地球温暖化対策、循環型社会の形成など環境問題に対する電力業界の取組み方針・計画をまとめたもので、経団連の「環境自主行動計画」(1997年6月)に組み込まれているほか、政府の「京都議定書目標達成計画」(2005年4月28日閣議決定)にも位置づけられています。

内容について毎年フォローアップを行ってきており、今回で9回目となります。

1頁のCO₂排出実績をご覧ください。

前回からの主な変更点として、まず、2005年度のCO₂排出原単位(お客さまの使用電力量1kWhあたりのCO₂排出量)が0.425kg-CO₂となり、前年度に比べ若干増加をいたしました。

理由としては、原子力の設備利用率が向上し発電量が増加したものの、渇水によって水力の発電量が減少したことや、冬の記録的な寒さによる電力需要の増加分を主として火力で対応したことなどによるものです。

ご案内のとおり、電力業界では、2010年度におけるCO₂の排出原単位(使用端)を、1990年度実績から20%程度、0.34kg-CO₂/kWh程度まで減らすことを目標に取り組んでいます。

しかしながら、原子力発電所の新規建設の見通しが当初の半数以下(97年自主行動計画策定時20基 8基)に落ち込むなど、達成は大変厳しい状況になりつつあります。

こうした状況ではありますが、私どもは、従来からの目標を堅持して、達成に向けて最大限の努力をしてまいり所存です。

資料の2頁目をご覧ください。

まず、電気の供給面においては、安全確保と信頼回復を前提に原子力の設備利用率の向上、そしてLNGコンバインドサイクル発電や高効率石炭火力の導入など火力発電の熱効率向上に取り組んでまいります。

また、直接私どもの排出原単位の削減に寄与するものではありませんが、わが国全体のCO₂抑制に寄与するものと

して、電気の使用面においても、ヒートポンプなどの省エネルギー機器の開発・普及に取り組んでまいります。

とりわけ、最新型のエコキュートは、従来の燃焼式給湯器に比べて排出量を約 6 割も削減することができることから、民生分野での CO2 排出抑制の切り札であると考えています。

さらに、地球規模での温暖化防止に貢献する観点から、海外でのバイオマス発電やメタン回収事業など京都メカニズムの推進・活用にも積極的に取り組んでおり、これらによる CO2 削減量は、2010 年までに 2,000 万 t-CO2 程度となる見通しです。

以上のような CO2 排出抑制に対する取り組みのほか、私ども電力業界では、廃棄物の再資源化についても取り組んでいます。資料の 3 頁をご覧ください。

私どもは以前から廃棄物の最終処分量の削減に取り組んでおりますが、前回のフォローアップからは、新たな目標として「再資源化率」を設定し「2010 年度における再資源化率 90%以上」を目指して取り組んでおりました。

2005 年度の実績はグラフにお示したとおりですが、電力需要の増加によって石炭灰などの廃棄物が前年度に比べて 41 万 t 増加した一方で、再資源化量も 80 万 t 増加したことから、再資源化率は 96%と非常に高い水準となりました。

これらの結果を踏まえて、今回のフォローアップでは目標値を見直し、2010 年度の再資源化率の目標を 95%程度にアップいたしました。

引き続き、廃棄物の抑制を図るとともに、発生量の多い石炭灰について、大量かつ安定して利用できる分野の開拓などに取り組んでまいります。

私からは以上です。

以上

今夏の電力需要について

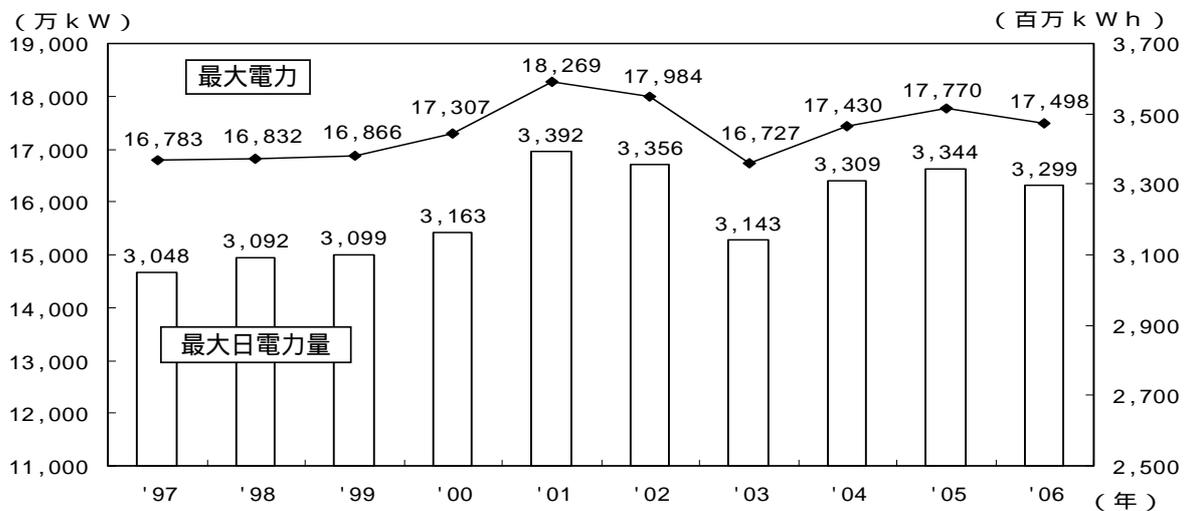
1. 今夏の各社需要実績

(単位: 万kW, 万kWh, 百万kWh, %)

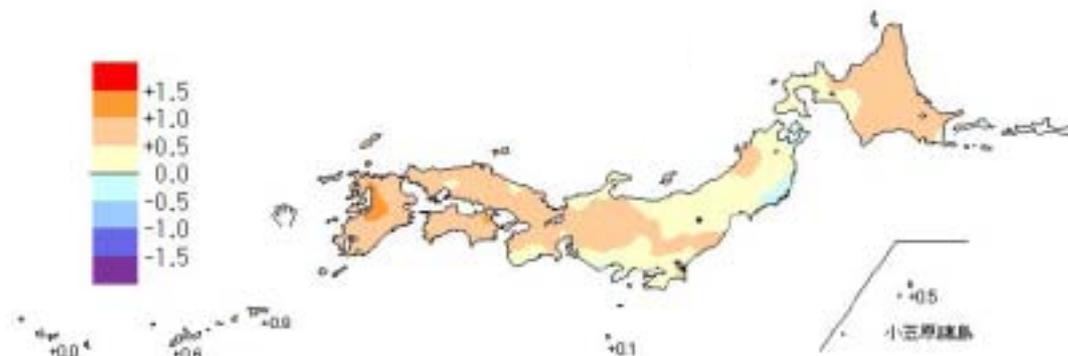
会社名	最大電力		最大日電力量			発電電力量		
		発生日	前年比	発生日	前年比	(7,8月合計)	前年比	
北海道	507	8/9	103.3	10,293	8/9	103.4	5,769	103.1
東北	1,476	8/8	97.1	28,440	8/8	98.5	15,221	102.2
東京	5,806	7/14	96.6	109,960	7/14	96.9	57,829	100.1
中部	2,697	8/25	101.1	50,084	8/10	102.1	26,408	103.0
北陸	549	8/21	100.0	10,573	8/9	100.7	5,599	103.7
関西	3,053	8/7	98.9	56,984	8/9	101.3	31,230	103.0
中国	1,192	8/8	103.6	22,934	8/8	105.2	12,497	104.7
四国	581	8/9	104.8	11,124	8/9	104.1	6,072	103.8
九州	1,754	8/9	106.4	33,658	8/9	107.1	18,273	105.1
沖縄	152	7/6	102.1	3,112	7/6	100.9	1,791	100.6
10社計	17,498	8/7	98.5	329,891	7/14	98.6	180,689	102.3

(注) 1. は新記録更新, は夏季の記録更新, 内の数字は新記録更新回数を示す。
2. 発電電力量は7月確報値、8月は速報値。

2. 10社最大電力と最大日電力量の推移



3. 2006年夏(6~8月)平均気温平年差



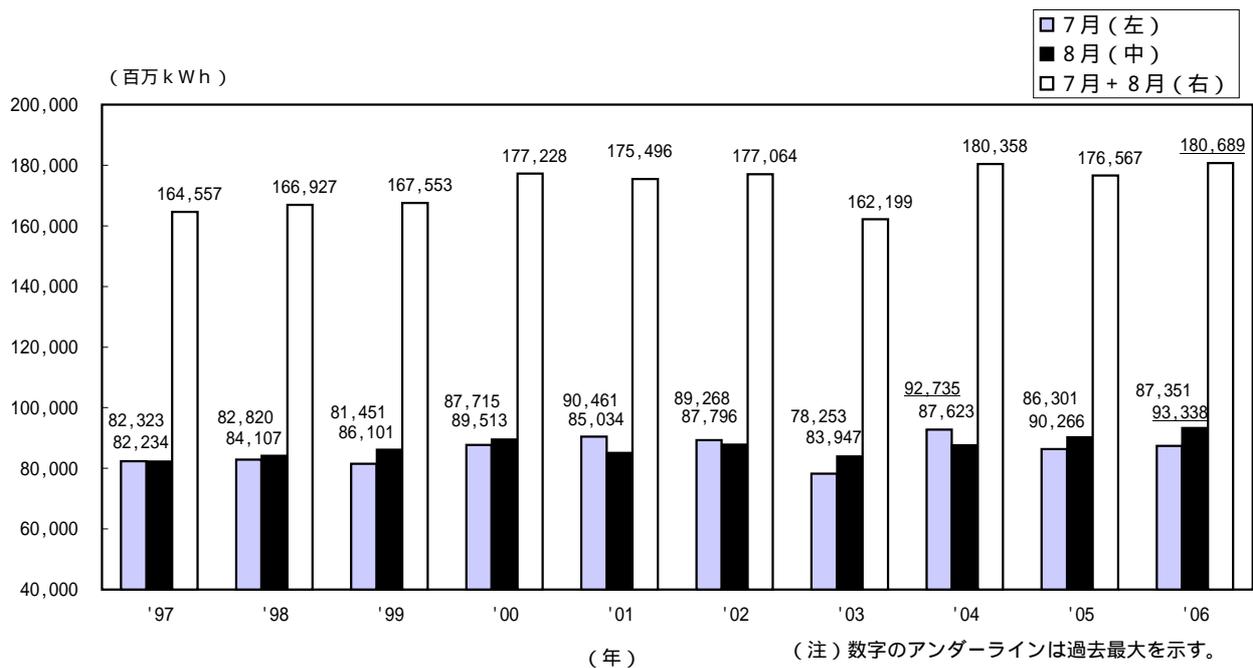
(出典) 気象庁HP

4. 10都市平均の最高気温と真夏日・熱帯夜日数

	最高気温()						真夏日(7・8月)			熱帯夜(7・8月)					
	7月平均	平年差	前年差	8月平均	平年差	前年差	7・8月	平年差	前年差	日数	平年差	前年差	日数	平年差	前年差
札幌	25.1	0.1	0.9	28.8	2.7	1.1	27.0	1.5	1.1	14	6.5	8.0	0	0.1	0.0
仙台	24.5	1.2	0.2	28.5	0.6	0.3	26.5	0.2	0.3	10	5.0	5.0	0	0.8	1.0
東京	28.6	0.4	0.5	31.1	0.3	0.7	29.9	0.1	0.5	30	6.2	9.0	19	1.4	7.0
名古屋	30.3	0.2	1.0	33.6	1.4	0.2	32.0	0.7	0.3	44	0.5	2.0	22	9.7	0.0
富山	27.9	0.9	1.5	32.7	2.3	1.3	30.3	0.8	0.1	35	4.6	1.0	7	3.0	3.0
大阪	30.8	0.6	0.8	35.0	2.0	1.8	32.9	0.8	0.5	49	1.1	1.0	41	12.6	4.0
広島	29.8	1.0	0.6	33.6	1.5	1.3	31.7	0.3	0.3	43	2.4	6.0	36	20.4	10.0
高松	31.2	0.5	0.2	34.0	2.3	1.2	32.6	1.4	0.5	49	4.5	0.0	36	24.5	11.0
福岡	30.9	0.2	0.3	33.0	1.4	0.7	32.0	0.9	0.2	45	2.2	3.0	39	14.3	7.0
那覇	32.0	0.7	0.1	32.0	1.1	0.1	32.0	0.9	0.1	58	6.9	1.0	60	7.2	1.0
10都市	29.2	0.3	0.6	32.4	1.2	0.4	30.8	0.5	0.1	37.7	1.5	1.8	26	8.9	2.8

(注) 10都市の気温は加重平均値、真夏日・熱帯夜は単純平均値。

5. 10社発電電力量の推移(7,8月)



以上

「電気事業における環境行動計画」のフォローアップについて

2006年9月22日
電気事業連合会

1. 地球温暖化対策

【CO₂ 排出削減目標】

2010年度における使用端CO₂排出原単位(お客様の使用電力量1kWhあたりのCO₂排出量)を、1990年度実績から20%程度低減(0.34kg-CO₂/kWh程度にまで低減)するよう努める。

【CO₂ 排出実績】

年度 項目	1990年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (実績)	2010年度
使用電力量 (億 kWh)	6,590	8,650	8,830	【見通し】 8,980
CO ₂ 排出量 (億 t-CO ₂) [IPP・自家発電 購入分再掲]	2.77 [0.02]	3.64 [0.26]	3.75 [0.27]	【見通し】 3.2
使用端 CO ₂ 排出原単位 (kg-CO ₂ /kWh)	0.421	0.421	0.425	【見通し】 0.36

【CO₂ 排出原単位増減の要因】

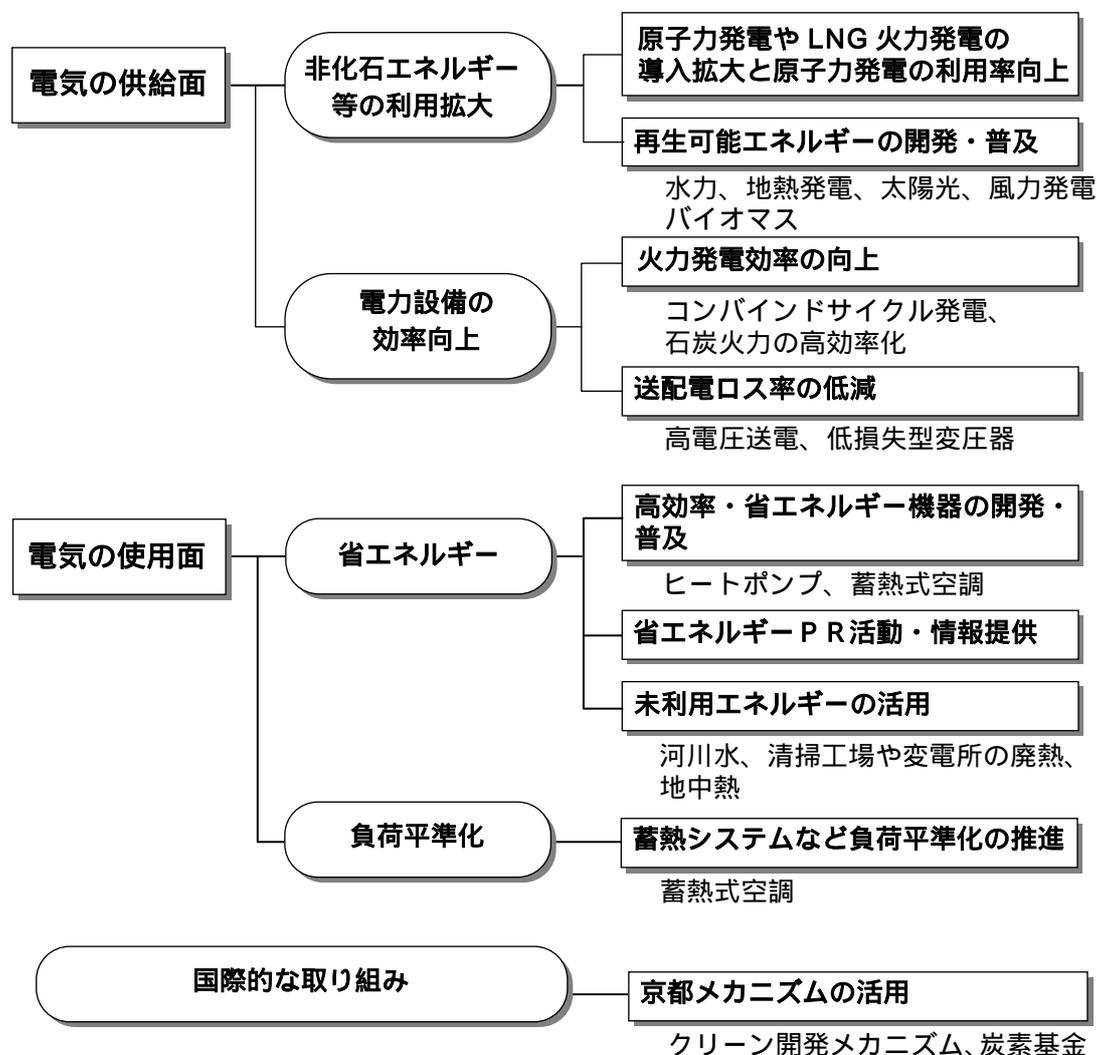
2005年度のCO₂排出原単位が2004年度に比べて若干増加したのは、原子力の設備利用率が向上し発電量が増加したものの、湯水によって水力の発電量が減少したことや、冬の記録的な寒さによる電力需要の増加分を主として火力で対応したことなどによるもの。

- * 原子力設備利用率
2004年度：68.9% 2005年度 71.9%
- * 発電電力量に占める原子力発電の割合
2004年度：29.1% 2005年度 30.8%
- * 発電電力量に占める水力発電の割合
2004年度：10.9% 2005年度 9.1%
- * 発電電力量に占める火力発電の割合
2004年度：60.0% 2005年度 60.1%

原子力の設備利用率が1%向上すると、CO₂排出抑制量は260万t-CO₂程度(電気事業者によるCO₂排出量全体の0.7%程度)となる。

【CO₂ 排出抑制に向けた今後の取り組み】

電気の供給面からの対策に加えて、わが国さらには地球規模での CO₂ 排出抑制に貢献するため、電力業界の排出原単位削減に直接は寄与しないものの、電気の使用面からの対策についても積極的に取り組んでいる。



「京都メカニズムの活用」は、現在の電力業界の原単位には含まれていない。

(参考：ヒートポンプによる CO₂ 排出抑制効果)

最新モデルでは CO₂ の排出量も従来型燃焼式給湯器に比べ約 60% 削減可能。京都議定書目標達成計画の目標である 2010 年度までに 520 万台普及した場合、CO₂ 排出抑制量は 400 万 t-CO₂ 程度。

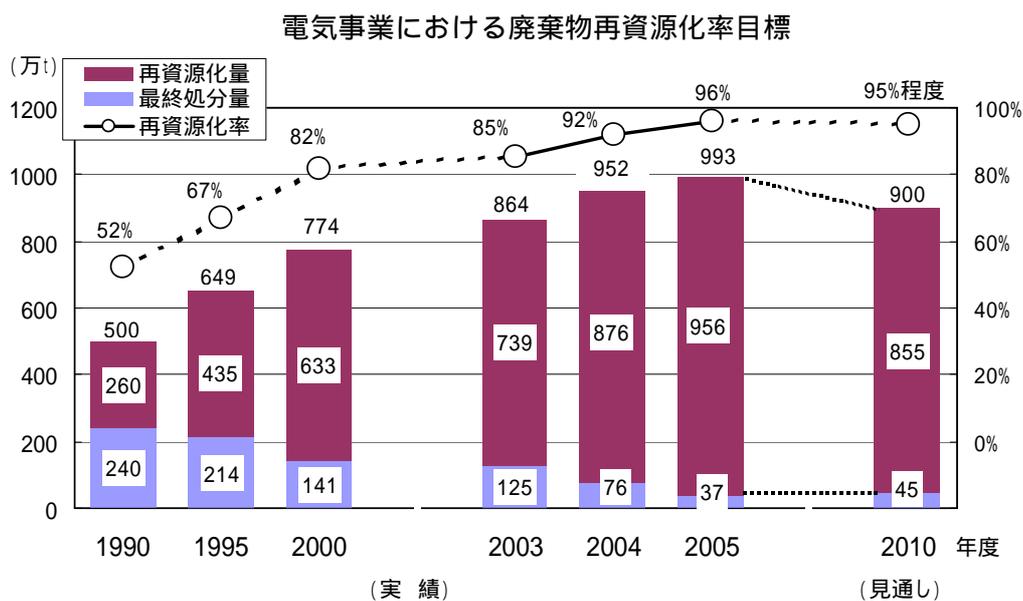
わが国の民生部門(家庭・業務用分野)で消費されるエネルギーのうち、空調と給湯が 50%以上を占めているが、仮にこれらを従来の燃焼方式などから全て高効率なヒートポンプ方式に置き換えた場合、約 1 億 t-CO₂ / 年の CO₂ 排出抑制が可能となる。(試算：(財)ヒートポンプ・蓄熱センター)

2. 循環型社会の形成

電気事業においては、着実に廃棄物最終処分量を削減し、数回に渡り目標値を引き上げてきた。そして前回からは電力需要の変動に大きく左右されない指標として再資源化率を目標に掲げ、2010年度の再資源化率を90%以上とするよう取り組んできたが、今回さらに目標値を高く見直すこととした。

【廃棄物再資源化率目標】

2010年度における廃棄物再資源化率を95%程度とするよう努める



以上